



実証試験地内の各ゾーン配置図

低コストモデル実証団地の全景



F 高刈りゾーンで説明する福山企画官

この実証団地については、これまで3年間で約1200名の方が視察等に訪れており、今年度は、第2回目を8月18日、第3回目を10月6日に開催しますので、「百聞は一見にしかず」と申します。興味のある方は、是非ご参加をよろしくお願いたします。

(担当：技術普及課)

持続可能な森林経営の確立（造林コストの低減等） 低コストモデル実証団地（次世代造林プロジェクト）現地検討会を開催

九州森林管理局では、持続可能な森林経営を確立するためには、造林コストの低減等が不可欠として、森林整備の低コストに向けた様々な取組が一覧できる「低コストモデル実証団地（次世代造林プロジェクト）」以下「実証団地」

というものを西浦国有林21ろ林小班（熊本南部森林管理署管内）に設定しています。実証団地は、昨年度から現地検討会の開催情報をホームページに掲載し、関係機関等の情報共有及び意見交換会を実施しています。

そこで、今年度第1回目を5月19日に開催しました。今回は、新型コロナウイルス感染症予防拡大防止のため、熊本県内の2者の参加となりました。初めに、白濱正明技術普及課長から、低コストモデル実

証団地の目的等を説明し、福山拓也企画官が各機関（森林総合研究所九州支所、九州育種場、宮崎大学、九州森林管理局、熊本南部森林管理署）が設定した11のゾーン（試験区）毎に、調査目的、調査内容、試験区域の概要等について説明しました。参加者からは、九州管内におけるシカの被害状況、今後の普及に向けた取組等について質疑がありました。

各ゾーン毎の試験・研究の成果が徐々に現れていることから、得られた成果等については、経過報告会を得て広く民有林にも情報公開することにより、低コストで効果的な施策が普及・定着するよう取り組んでいきたいと考えます。

新規採用者への 研修を実施

【熊本森林管理署】例年、一般職（大学程度・高卒者）新採用研修については、東京都の森林技術総合研修所で実施されていますが、本年は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止となったことから、配属先において実施することになりました。

これを受けて当署では本年度の新規採用者の大瀬敦也技官に対して、川畑充郎署長が

林野庁から送付された講義資料により国家公務員及び国有



講義を受ける大瀬技官

林野事業職員としての心構えや基礎的な内容である、「人事評価、ハラスメント」「公務員倫理」「森林・林業の基礎知識」「職員の健康安全」について、署独自の追加資料も交えて4月中旬に4回に分けて講義を行いました。

また、これとは別に川畑署長から林野庁の入庁案内、局及び署のパンフレット等とともに、林野庁の業務内容、国有林野事業の取組等についての講義を行い、職場への理解を深めてもらいました。

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の中であり、本年度の新規採用者には大変不自由な中での新社会人としての船出となりましたが、大瀬技官には1日も早く職場に慣れてもらい次世代の国有林野事業を担う人材になってもらいたいと思います。

林野庁長官 感謝状を贈呈

【宮崎森林管理署】宮崎市田野町の株式会社長倉樹苗園は、「国有林と連携した国民の森林づくり活動に尽力、国有林の管理経営の推進や森林・林業の発展にも多大なる貢献」



飯干署長より感謝状を伝達

が評価され、この度、林野庁長官感謝状（令和2年4月20日付け）を授与されました。

同園は、昭和35年からスギ苗生産を開始され、以後、宮崎県樹苗組合を通じ国有林への苗木の供給を継続され、平成15年度には苗木品評会において林野庁長官賞を受賞されています。

さらには、平成21年9月より九州森林管理局の要請に依りコンテナ苗の生産をいち早く開始され、現在では、ペーパーポット苗、水耕栽培、エアさし栽培などの技術開発に

も着手されています。平成31年度実績で約20万本のスギコンテナ苗を生産、現在はビニールハウスの増設等に取り組みされており、令和2年度から3年度中には大幅な増産・供給体制の整備を目指されています。

また、宮崎大学等と連携され、刈払機を改良した植付機「ほるほる君」や携帯電話iPhonの測定機能を利用し植付間隔を簡易に測る「しゃくとりさん」も発表されるなど、植栽の効率化・技術開発にも意欲的に取り組んでおられ、当局の技術開発や低コスト造林の普及、啓発に多大な貢献をされています。



林野庁では、令和2年5月20日から6月30日までの期間、「山地災害に備える」を合い言葉に、「山地災害防止キャンペーン」を実施しています。九州森林管理局においては、この期間中、地域住民の皆様への防災意識の高揚に資することを目的として、関係機関や地域住民の皆様などのご理解・ご協力を得ながら、山地災害危険地区の周知やパトロールなどを実施しています。

（担当）一治山課

くすさない！守り育てるほくら山

令和2年度 山地災害防止キャンペーン

期間 5月20日(水) - 6月30日(水)

主催 林野庁・都道府県・市町村

協賛 (一社)日本治山治水協会

令和2年度 臨時国有林材供給調整検討委員会を開催

～立木販売を一時見合わせへ～

令和2年度臨時国有林材供給調整検討委員会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、委員への資料送付及び意見照会方式で令和2年5月12日～21日に実

施しました。

【委員会の検討結果】

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、住宅展示場等での営業活動や建築工事自体が自粛されたため、製材品の売れ行き不振と製材工場の減産により原木の需要が低迷している。一方中国での感染縮小に伴う工場再開により、同国への木材輸出が4月から動き出し始めている。

今後の木材輸出の状況や国内の住宅着工戸数の動向等に注視しながら、状況に応じて追加の国有林材の供給調整を図る必要がある。

【主な意見】

○中国向け原木輸出が動き出したこともあり、今のところ原木価格の下支えとなっている。新型コロナウイルスの影響で滞っていた中国向けニュージールランド材が動きだし、国内の輸出用原木の動きが悪くなれば、原木価格の下落が進むかもしれない。

国有林材の供給調整は、今のところは注視しながらも見守り、供給過多により価格低迷が収まらない場合追加対策が必要ではないか。

○非常事態宣言を受け、住宅展示場等での営業活動

や建築工事自体が自粛されており、この影響が今後の住宅着工戸数にどのような影響を及ぼすのか不明である。原木や製材価格の低迷はいたしかたないが、原油等の他の資源の暴落に比べれば恵まれていて、鉄骨等の他の基礎資材の価格下落も甚だしい。

ここで原木の安定供給を怠れば、国産材のシェア奪還の好機を逃がしかねない。輸出入が不安定なので、うまく立ち回れば国産材にとってチャンスであり辛抱すべき。

国有林のシェアからして供給調整しても、その効果は限定的と考える。

○バイオマス発電向け未利用燃料は通常どおり出荷されている。スギ材の輸出が一時的に低迷し、C材が当社へ予定以上入荷したが受け入れている。新型コロナウイルスによりニュージールランドロックダウン、コンテナ物流制限が起き、4月から急遽中国向けの引き合いが増えたが、今後は中国经济の復帰状況やコンテナ物流回復状況次第と思われる。

すでに国有林材の供給調整は行われており、さらな

る追加は足元では不要かと思われる。むしろ、新規住宅着工数低迷、製材所稼働率低迷により背板チップ発生減による紙パルプ向け原料チップの減少が心配。

○新型コロナウイルスの影響で工事現場が止まっている。そのため製品の売れ行きが減少しており、価格も日々下落しリーマンショック時より厳しい状況。原木は製品の売れ行き不振と製材工場の減産により暴落している。

これ以上の原木価格の下落はさせてはいけないので、追加の共有調整をお願いしたい。

○丸太の出材状況は、5月現時点で前年比増となっている。この状況は九州各地の市場でも同じ状況といえる。販売先である大型製材工場・合板工場は10～20%減産状況の中、丸太の供給過多となり、相場はスギ・ヒノキ共に大幅な値下がりとなっており、素材生産収支は大幅な赤字となっている。

暴落ともいえる市況で出材が減らないのは、素材生産請負事業者の事業継続（雇用確保）のため、採算割れで厳しい状況の中でも

事業をストップできない状況にあると考えている。これから材が低質化する時期を迎えるので出材調整を検討してほしい。

○地元では、木材運搬の大型トラックの姿を目にするのが急激に少なくなり、立木の販売情報（民有林）も途絶えている。6月以降は先行き不透明といった話がかかり多くなっている、これからの景気の動向については不透明でありすぎるため、国有林材の供給調整の必要の有無についても判断できない。

○原木需要の落ち込みにより価格が低迷しており、素材生産業の採算割れ、その影響による出材量の減少となっている。輸出については、中国市場の低迷による動きの鈍化を受け、低質材の行き場がなくなっている。このため丸太在庫の滞留、保管場所の確保が困難な状況となっている。

先の動きが見えない中、国有林材の供給調整は必要である。

九州森林管理局としては、委員会からの報告を受けて、引き続き状況を注視するとともに、立木販売の搬出期間の延長物件の拡大を図り、

追加の措置として、立木販売（分収育林を除く）の一時見合わせを行うこととしています。

※本検討委員会は、九州森林管理局HPの注目情報「九州森林管理局国有林材供給調整検討委員会の検討結果等について」からご覧になれます。

（担当）地域木材情報分析官

伐採跡地に機械の走行路を設定して苗木を植栽

【大分西部森林管理署】大分西部署管内に昨年設定された分収造林地で、下刈りなどの森林施業に機械を最大限活用するため、予め機械の走行路を設定した苗木の植栽が行わ

て、天皇陛下御即位記念分収造林として九州森林管理局長との間で分収造林契約が締結され、同社により苗木が植栽されています。

設定した上で苗木を植栽し、下刈りなどの森林施業に機械を最大限活用する林業経営を実践することとしたものです。当日は、同社の工藤洋一社長にご案内いただき、大分県林務担当者とともに造林地の状況を調査し、いわゆるコンマ25サイズのベースマシンに対応する幅員5.5mの走行路と走行路の間にヘクタール当たり2000本に相当するスギコンテナ苗が、2m

間隔で5列植栽された様子

を、森林管理署職員が操縦するドローンで上空からも確認しました。走行路は、大分県西部振興局農山村振興部との調整も経て、重機の安定確保の観点から等高線に対してお

おむね垂直方向に設定されており、走行路から重機がアームを4メートル伸ばせば、3列目の苗木まで届くことが可能です。重機のコックピットから諸作業を実施していくことを考え、シカが多数生息しているため必須となる被害対策については、苗木の所在が明確になるという効果も得ることとして資材で単木的に保護することとし、周囲へのシカネットの設置は省略されています。

わが国では、造材作業では機械化が進んでいる一方、造林や保育の作業では、依然としてほとんどが人力に大きく依存しており、過酷な環境下



空中から撮影した現地の状況(遠景)

造林地は、中村森林事務所内の玖珠町森平家山国有林214ぬ4林小班の立木販売物件搬出跡地約3.6ヘクタールで、昨年2月13日、管内の林業事業者である久大林産(株)が造林者となっ



現地の状況(近景)

間隔で5列植栽された様子



昨年の下刈り機械稼働実演の様子



機械の稼働状況

を備えたコンマ25サイズが、作業時の斜面での安定性の面からもベースマシンに適すると感じられる。これらの知見も活用して今回の植栽が行われました。

今後、苗木の生長に伴って、下刈りや除伐といった造林・育林過程の作業が、炎天下でも冷房の効いたコックピットから、蜂やダニ刈り刃のキックバックを気にすることもなく快適かつ高効率に順次実施されていく様子を目で見て確認できることが期待されます。

管内の国有林から実際に目で見ると、コンバイン等の機械が性能を最大限に活用できるような圃場整備が進められた稲作とは異なり、容易に地形を改変できない山間で林木を生育させながら高度な公益的機能も発揮させている林業では、急傾斜や土質、転石、根株といった様々な障害の存在を前提として機械化を図らざるを得ないとともに、厳しい環境下で機械の性能をいかにより大きく発揮させていくかといった工夫が欠かせません。

での作業における労働の強度や危険性が指摘されてきました。下刈りを行い得る乗用機械としては、ベースマシンとなる重機への取り付けが可能な切削器具を備えたアタッチメントが商品化されており、昨年10月に、同社が造林者である別の分収造林地で実施された稼働実演で、下草や雑草の木まで刈り払える性能を確認していましたが、苗木を踏み付けられないよう重機を慎重に操作する必要があります。

林業にとって厳しい環境下

での作業の機械化は宿命とも言える高いハードルですが、今回、当署としては、課題解決に果敢に取り組む優れた地域林業事業者の熱い思いを、分収造林制度も活用したフィードバックの提供という形でご支援することができました。

機械化を念頭に置いた造林地での経営を通じて、成林までのコストの大半を占めていた造林・保育作業の低コスト化、ひいては林業への旧来の評価が覆されていくことを期待しながら、引き続き、様々な形で民有林・国有林の連携を深めていきたいと考えています。

早生樹（センダン）の芽かきを実施

【宮崎南部森林管理署】近年、再造林の増加等に伴い低コスト造林を目的に、早期の生育が期待される「早生樹」の育成に関心が高まっています。こうした中、センダンはケヤキやキリの代替材として、家具材や合板等の利用が期待されています。

当署では、平成31年3月に皆伐跡地の林縁にセンダンを20本植栽し育成しているところであり、今回OJTも兼ね職員でセンダンの芽かきを5



芽かきの様子

いるのか、なぜセンダンなのか、芽かきの意味や方法等の説明を受けたあと、コロナの関係もあり、お互い密にならないようにしながらセンダンの芽かきを各自行いました。研修生からは、芽かきをする上でどの芽を残すか大変悩んだことや、直材に仕立てていく事が理解出来たという感想があり、今後センダンの仕立て方の工夫や手をかけたセンダンの生長が楽しみとなっています。

「スギの直挿し造林」の試験地を設定

【鹿児島森林管理署】当署では、鹿児島県における苗木需給のひっ迫対策及び低コスト造林技術の確立に向け「スギの直挿し造林」を試行し、課題や可能性についての検証・検討を行うことを目的に試験地を設定しました。

試験地設定にあたっては、国有林には直挿しのノウハウがないため「鹿児島森林技術総合センター」に協力を要請し、共同で実施していくこととしました。採穂及び直挿し作業ではセンターに指導を仰ぎながら0.05haに約140本を直挿しました。



生長量調査の様子

月22日に実施しました。今なぜ早生樹が注目されて

新規採用者研修実施中 〓署の現状を含めて〓

【西都児湯森林管理署】令和2年度一般職の新採用研修が新型コロナウイルス感染症対策に伴い所属署において実施することとなりました。

例年、同年度に配属された初々しい友と肩を並べ切磋琢磨し研修に打ち込む時期であります。残念ながらこのような状況下で大変可哀想であります。西都児湯署では配布教材に署の実態等を含めた有意義な講義になるよう努めました。



挿し穂づくりの様子



直挿し作業の様子

3月初旬に行った直挿し後は2週間毎に活着状況調査を行っており、今後、発根状況や前処理方法の違いによる活着率の影響などを調査することとしています。

各講義毎に担当を決めて実施することとし、最初に鶴山道弘署長から、人事評価等に関する講義を行いました。また、各週毎に公務員倫理関係、森林・林業の基礎知識、最後に職員の健康安全について実施しました。第3講義の森林・林業の基礎知識については、先ず、奥村克次長からKP法も活用しながら森林の役割や森林施業等について講義を行い、引き続き渡辺浩司森林技術指導官から、森林資源の活用や森林の適切な管理等について、これまでの経験などを交えながら、当署の取組及び森林の整備・保全につ



渡辺森林技術指導官による経験を活かした講義の様子



小城森林技術官指導の下刃研ぎに挑戦

新規採用者が 刃物研ぎに挑戦

【宮崎南部森林管理署】5月26日、新規採用者への安全対策研修を若手職員のOJTを

いて講義を行い、受講者から「これからの取組について解りやすい説明とユーモアで受講できた」との感想がありました。

当署には、若い職員が多いことからOJTを含め経験を積んでもらい、これからの国有林を担っていく人材を育てるよう職員みんなで取り組むこととしています。

兼ねて現場において実施しました。

まず、松永眞弥次長から服装・装備の点検、単独行動の排除、山の歩き方等についての説明がありました。その後、小城守森林技術員の指導の下、刃物の研ぎ方について説明を受け、実際に腰なた研ぎに挑戦しました。切れ味が悪い新品の腰なたなどは、災害発生のリスクが高いことから、念入りに中砥で研いでいました。研修生からは、「刃先の角度を一定に保つことが難しい」「柄を持つ手が利き手以外で研ぐとかが難しい」「刃渡り先端を研ぐ時が難しい」など

悪戦苦闘する中、とりあえず刃先がピカピカに光っていました。引き続き林内へ移動し、刃物の取り扱いの基本動作を指導した後、雑灌木、つるの切断や杭作りに挑戦し、研いだ腰なたの切れ味を試していました。

最後に研修生からは、「思った以上に切れなかった」などの感想はありましたが、「安全は何よりも重要であり、これからも安全第一で業務に当たり、何事にも挑戦・実践できる職員になりたい」と心強い感想を受け、現場第一戦で活躍できることを期待し無事研修を終了しました。



中村祐子さん

囲まれた生活になった近頃の山、虎尾桜（とらおざくら）を見に登った山で、

る看板との出会いがきっかけでした。国有林って何だろう??という疑問が浮かんだのと、何年かぶりに登った山は、足場が悪くて険しかっ

れている山に感銘を受けました。たくさんの人たちの手によって木や森や自然が守られていることを実感するばかりでした。森林に

い木にしかならず、増えすぎた葉や枝が太陽の光をさえぎり地面まで届かなくなり、台風などで木が倒れやすくなるため土砂崩れなどの災害を招いてしまいました。

木の温もり

- 一般社団法人 九州林業土木協会 様
- 一般財団法人 日本森林林業振興会熊本支部 様
- 一般財団法人 森林・林業調査研究所九州支部 様
- 九州国有林採石協会 様
- 九州国有林林業生産協会 様
- 株式会社 森和 様

私は子供のころから木が好きです。私の家は自然に囲まれた所で、そんな環境で育ったからか木や森を見るととても落ち着くし癒されます。DIYも好きで廃材や木を集めて、気付けば家の中も木に

福岡森林管理署が立てた国有林を知らせて

た山という記憶でしたが、今は整備されている山になっていくことに気がきました。

はCO2の吸収、水の貯蔵、また大雨による災害を予防するため、下流に急激に流さず保水することで土砂崩れを防ぐなど、とても大切な役割を持っています。

しかし、植林されてから成長していく上で、適切に間伐しないと木が十分に生育せず森林環境に悪影響を与えてしまいます。



森林に国有林や民有林があるなんて知らなかった私は、森林について興味を持ちました。「みんなで大切な森林をきれいにしましょう」と投げかけられる言葉は、目にする私たち誰もが共感できること、また手入れさ

長と木が互いに成長の邪魔をして、細

い木にしかならず、増えすぎた葉や枝が太陽の光をさえぎり地面まで届かなくなり、台風などで木が倒れやすくなるため土砂崩れなどの災害を招いてしまいました。

（福岡県在住）

訂正して、お詫びします

広報九州（NO1799）9ページの「綾プロ勉強会」を開催し地域と連携した取組を目指して、【宮崎森林管理署】の記事で、隣接する県有林、町有林、私有林を含めたエリアの面積を「1千ha」と掲載していましたが「1万ha」の誤りでした。

監物台樹木園の 多様な植物



私は還暦の時にこの材で記念品を作り兄弟などに配布した。やがて20年になろうとしていますが、配布を受けた者は捨てに捨てられず困っているようです。

学校、公民館、市役所関係などの庭木や生垣に用いられ、枝が不通ねじれる傾向にあり、手入れ不足では樹冠が火炎状になります。

鱗状葉だけで針葉葉を生じることが極稀です。葉は深緑色イブキノ園



151 カイズカイブキ (ヒノキ科)

芸種で、高さは普通6〜7mですが20m近くになるものもあります。

暖地でよく生育し、葉は密生しほとんどが鱗片状で、生垣に利用され成長するにつれて側枝がらせん状にねじれて主幹に巻き付くようになり、狭円錐形の独特の樹形になり、剪定はほとんど不要です。

しかしながら、ごくまれに針状の葉が出る場合があります。一度針葉が出てしまうと、戻らないことが多

いので、適度な剪定、管理が必要で

す。イブキノ仲間には「梨赤星病」を媒介するので、梨園の近くには植えないうような気を付けましょう。名前は海辺などに自生するイブキ（ジャクソン）の園芸品種。大阪の「貝塚」で作られたためカイヅカイブキとされました。

森林インストラクター

安桑 行雄



30数年ぶりの屋久島勤務になった、前回勤務のときは世界遺産認定前であり、また、高速船の就航もなく観光の島であるメージがなかったが、今ではあちこちに民宿等の看板が多く、観光の島になったことがうかがえる▼しかしながら、新型コロナの影響で観光や登山者も少なく寂しい状況にある。また、島内の職員も外出自粛の影響でほとんどの方が5月の大型連休中帰省せず、少々退屈気味のようだった。▼着任早々縄文杉まで登ったが、みんなの歩くペースについて行けず大変迷惑をかけた。日頃の運動不足を猛省し近くのウォーキングコースを早朝と夕方に散歩することにした。散歩中挨拶を交わす人も多くなり、継続は力なりで続けていきたいと思う▼5月も後半になりシャクナゲの開花の時期になり、本来なら登山者や観光客で賑わうところだが、一日も早く新型コロナが収束して通常の生活状態に戻れることを期待したい。

(み)